

1. 取組 A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演（高校での体験授業）

(2) アンケート結果

① 調査の概要

本調査は、高校生を対象とした職の魅力発信として、本学教員による幼児教育の重要性、保育職の魅力、進路選択に役立つ情報提供に関する出前授業を行い、その成果として受講者の理解度、興味の変化を明らかにすることを目的とした。

調査期間は令和6年8月27日（火）～12月26日（木）とし、調査方法は自記式の調査票を用いた集合法とした。調査時期は出前授業後とし、出前授業を受講した854名（男子228名、女子604名、回答したくない17名、無回答5名）の高校生（1年生452名、2年生215名、3年生173名、無回答14名）から回答を得た。

主な調査内容は、出前授業を通じた「子どもや子育てへの興味や関心の深まり」や「保育職に対するイメージの変化」「保育職への興味や関心の深まり」「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり」「保育・幼児教育系の学部学科への進学意向」、体験授業に対する感想等とした。

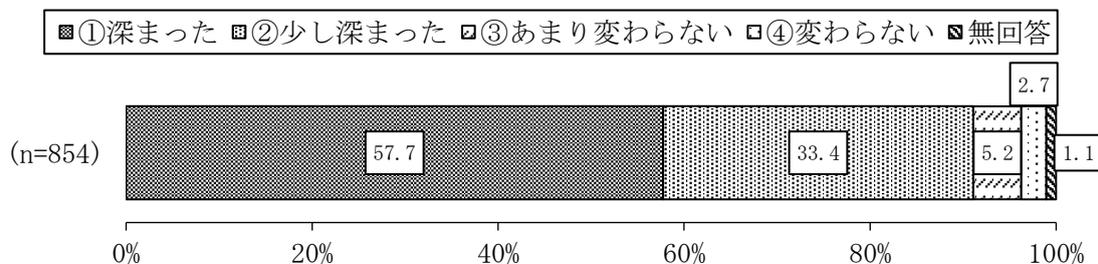
② 主な調査結果

出前授業による保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化や体験授業に対する感想は以下の通りである。各調査結果については、単純集計のほか、保育・幼児教育関係への進学を希望する生徒（123名）と希望しない生徒（678名）でクロス集計も行った。さらに、出前授業による保育・幼児教育系の学部学科への進学希望の変化の要因を探るため、保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化を説明変数とした重回帰分析も行った。

ア. 出前授業による保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化

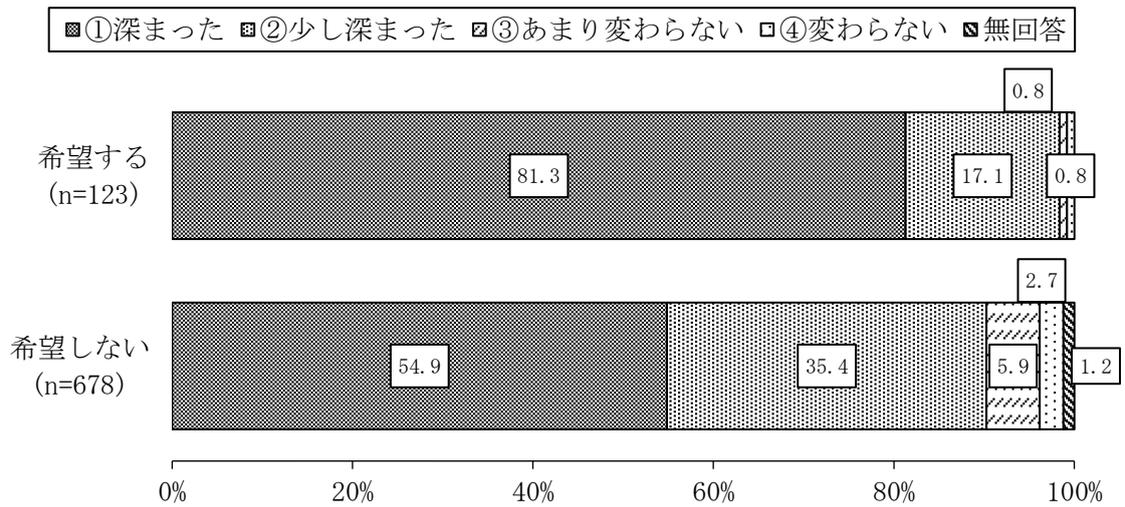
（子どもや子育てへの興味や関心の深まり）

出前授業を受け、「子どもや子育てについて興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は91.1%で、ほとんどの生徒が出前授業を通じて子どもや子育てへの興味や関心が深まったことが分かった。



図〇. 子どもや子育てへの興味や関心の深まり

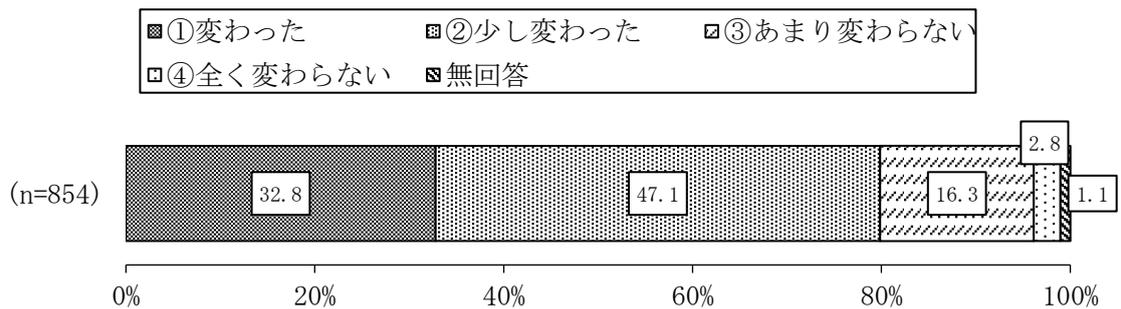
そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（81.3%）と希望しない生徒（54.9%）で大きな差がみられたが、「少し深まった」を合わせると、いずれも9割を超えていることから、進学希望の有無に関わらず、出前授業を通じて子どもや子育てに対して興味や関心が深まったことが分かった。



図〇. 保育・幼児教育への進学希望別 子どもや子育てへの興味や関心の深まり

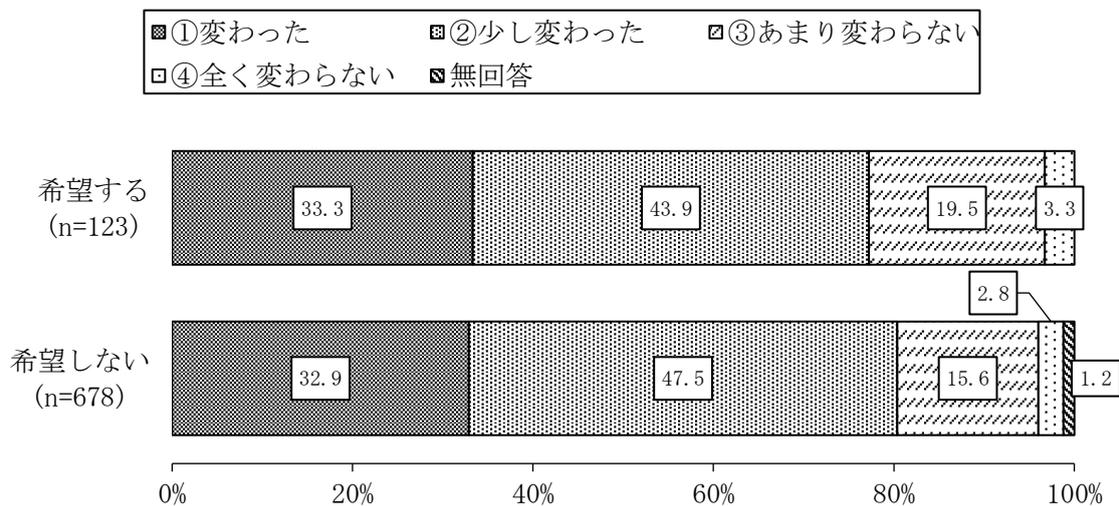
(保育職に対するイメージの変化)

出前授業を受け、「保育職（幼稚園や保育園の先生）に対するイメージが変わったか」と尋ねたところ、「変わった」「少し変わった」と回答した生徒は79.9%で、8割弱の生徒が出前授業を通じて保育職に対するイメージが変わったことが分かった。



図〇. 保育職に対するイメージの変化

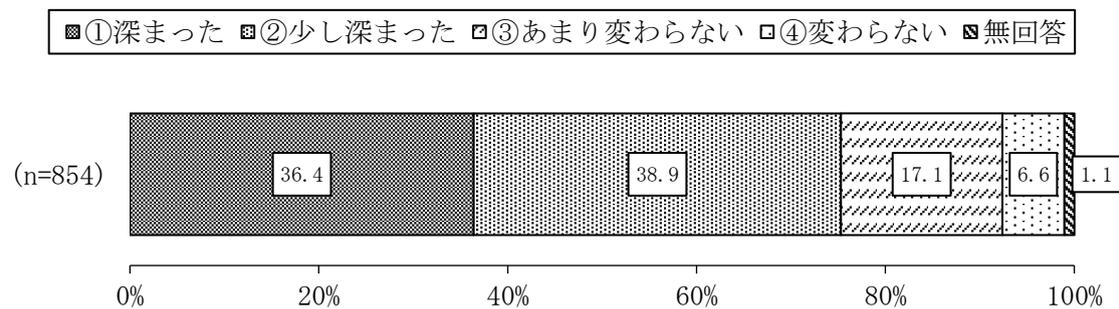
そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「変わった」と「少し変わった」を合わせて回答した割合を比較してみると、希望する生徒は77.2%、希望しない生徒は80.4%が変わったと感じていることから、希望しない生徒の方が出前授業を通じて保育職に対するイメージが変わったことが分かった。



図〇. 保育・幼児教育への進学希望別 保育職に対するイメージの変化

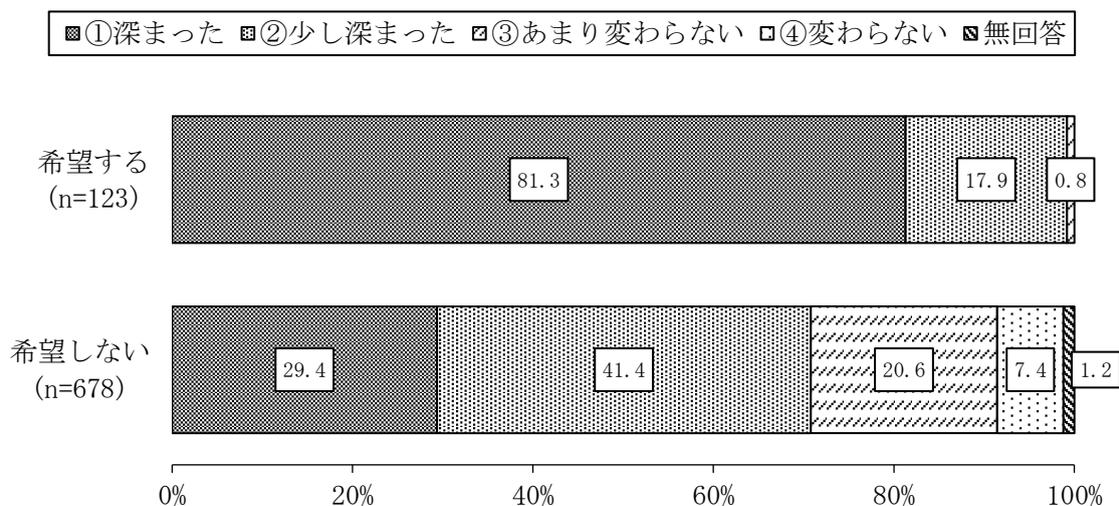
(保育職への興味や関心の深まり)

出前授業を受け、「保育職（幼稚園や保育園の先生）について興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は75.3%で、およそ7割強の生徒が出前授業を通じて保育職への興味や関心が深まったことが分かった。



図〇. 保育職への興味や関心の深まり

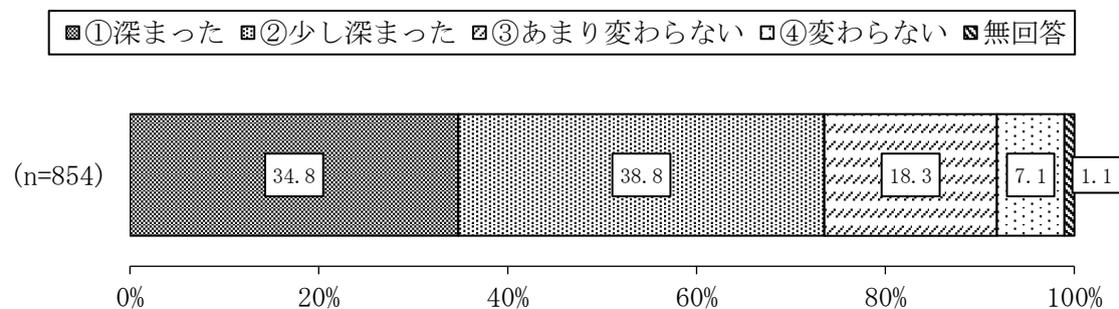
そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（81.3%）と希望しない生徒（29.4%）では50ポイント以上の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、出前授業を通じて保育職に対する興味や関心が深まっていることが分かった。しかし、「少し深まった」を合わせると、希望しない生徒でも70.8%が変わったと感じていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、7割以上の生徒は出前授業を通じて保育職に対して興味や関心が深まったことが分かった。



図〇. 保育・幼児教育への進学希望別 保育職への興味や関心の深まり

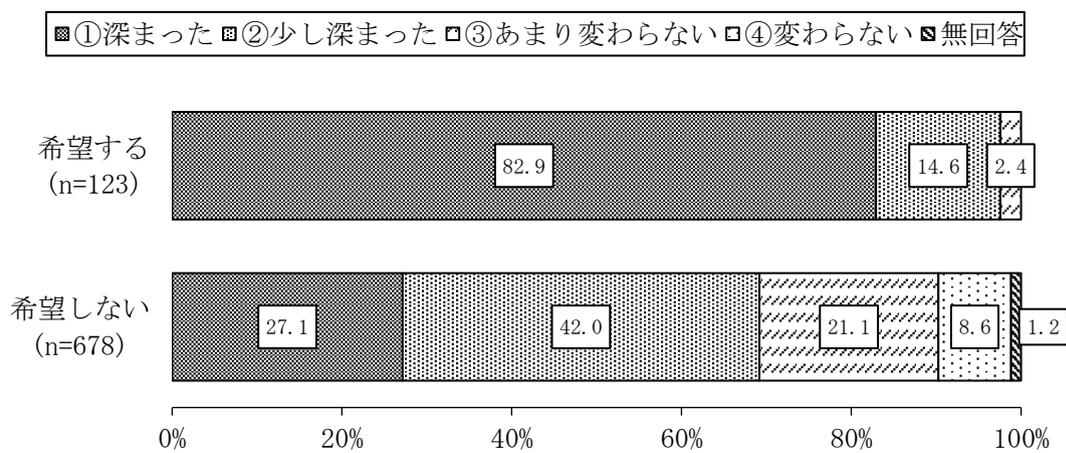
(保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり)

出前授業を受け、「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は73.5%で、7割以上の生徒が出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったことが分かった。



図〇. 保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり

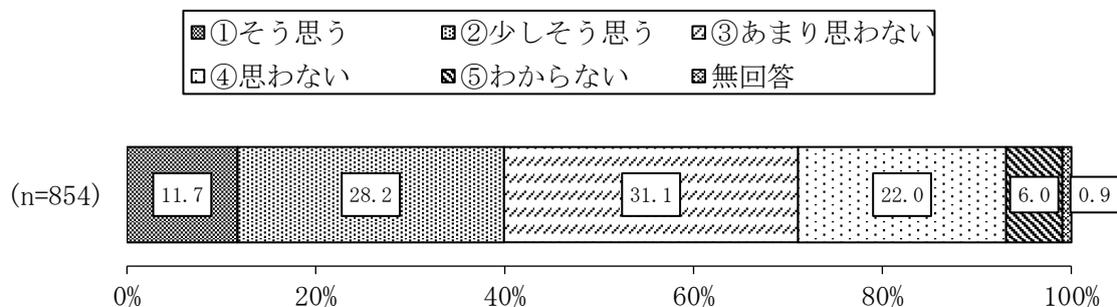
そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（82.9%）と希望しない生徒（27.1%）では50ポイント強の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科に対する興味や関心が深まったことが分かった。しかし、「少し深まった」を合わせると、希望しない生徒でも69.2%が深まったと感じていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、7割近くの生徒は出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科に対する興味や関心が深まったことが分かった。



図〇. 保育・幼児教育への進学希望別 保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり

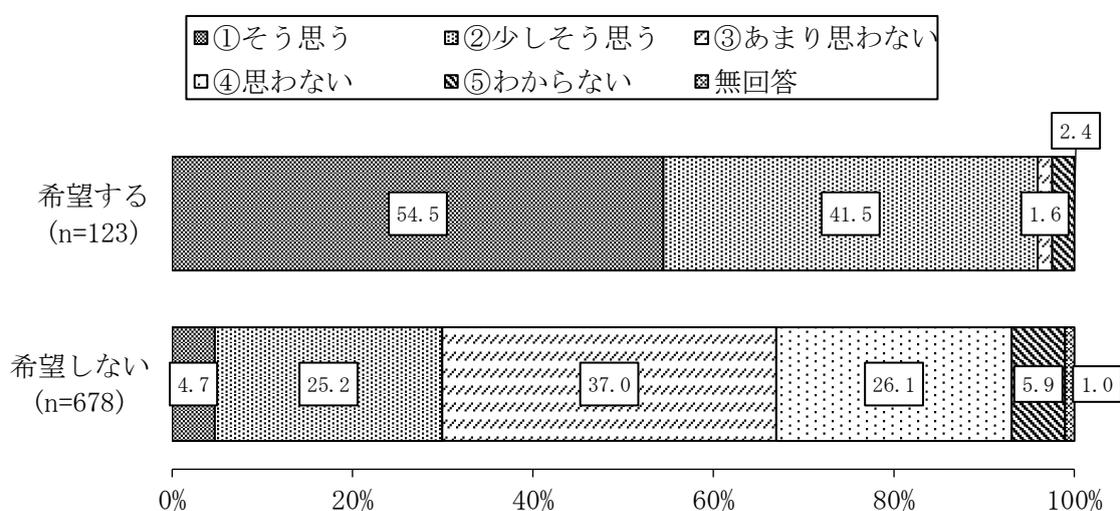
(保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向)

出前授業を受け、「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うか」と尋ねたところ、「そう思う」「少しそう思う」と回答した生徒は39.9%で、4割近くの生徒が出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思っていることが分かった。



図〇. 保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向

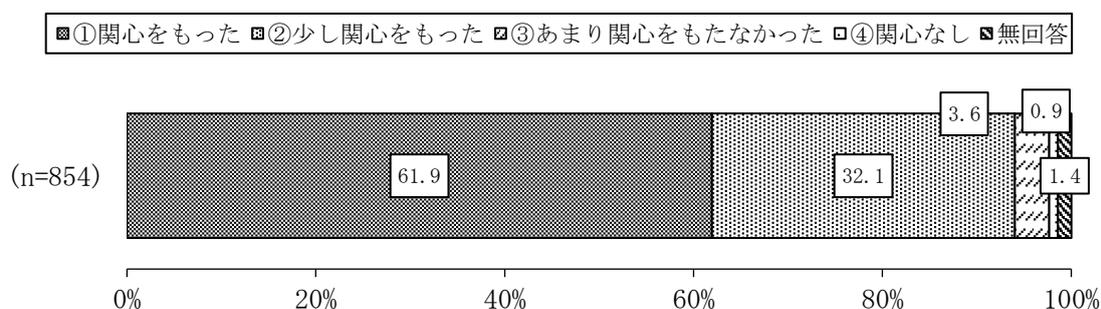
そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「そう思う」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（54.5%）と希望しない生徒（4.7%）では50ポイント程度の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科への進学先したいという思いを強くしていることが分かった。しかし、「少しそう思う」を合わせると、希望しない生徒でも29.9%が保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思っていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、3割弱の生徒は出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになることが分かった。



図〇. 保育・幼児教育への進学希望別 保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向

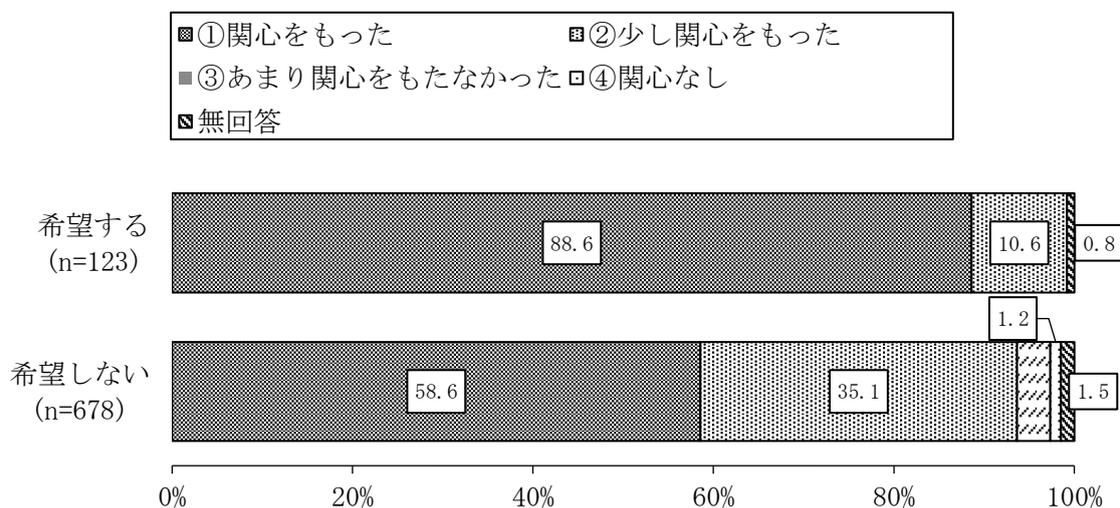
イ. 出前授業に対する感想

出前授業について関心をもったかどうか尋ねたところ、「関心をもった」「少し関心をもった」と回答した生徒は94.0%で、ほとんどの生徒が出前授業の内容に関心をもったことが分かった。



図〇. 出前授業への関心

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「関心をもった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（88.6%）と希望しない生徒（58.6%）で大きな差がみられたものの、「少し関心をもった」を合わせると、いずれも9割を超えることから、進学希望の有無に関わらず、ほとんどの生徒が出前授業の内容に関心をもったことが分かった。



図〇. 保育・幼児教育への進学希望別 出前授業への関心

<重回帰分析による要因分析>

出前授業による保育・幼児教育系の学部学科への進学希望の変化の要因を探るため、保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化を説明変数、保育・幼児教育系の学部学科への進学希望の変化を目的変数とした重回帰分析を行った。

分析の結果、出前授業を通じて「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思った」という意識の変化は「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったか」(0.44)や「保育職に興味や関心が深まったか」(0.28)と有意に関連していることが分かった。

この結果から、保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まり、保育職に興味や関心が深まることで、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思う傾向にあることが示唆された。

	偏回帰係数
子どもや子育てについて興味や関心が深まったか	-0.03
保育職のイメージが変わったか	-0.01
保育職に興味や関心が深まったか	0.28***
保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったか	0.44***
体験授業への関心について	0.09
N	782
F 検定	117.16***
自由度調整済み R ²	0.43

表〇. 「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思ったか」を目的変数とした重回帰分析の結果

<出前授業の主な感想>

- ・ 今までは、保育士は特別な事情のある児童の世話をするというイメージしか持っていませんでしたが、授業を通して、児童が住みやすい社会づくりであったり、指導なども仕事の一つであると分かりました。また、様々な児童によって施設があるということを知ることが出来たのでよかったです。
- ・ 子どもの育て方について深く学べて良かった。今、自分が幼児にしたほうが良いことは、自分が幼児の頃に大人の人にしてもらいたかったことなんだと実感して、保育の授業の経験を生かして幼児に接したいと思った。
- ・ 子どもの一つ一つの行動や何気ない発言は全て子どもの成長のきっかけになることが分かり、改めて教育の面白さや魅力を知れた。思ったより子育てに関わる仕事が多く驚いた。
- ・ 子どもの非認知能力を高めるためには、子どもを否定しない、すぐに答えを教えないということが大切だと知った。これは私が親になった時にすごく役立つと思う。
- ・ 自分の小さい頃の経験が今の探究の授業だったり思考につながっていることを知れて、親に感謝しようと思えました。また自分も親の立場になった時にはこれらのことを生かしていきたいです。
- ・ 自分は社会福祉に興味があり、もし将来児童福祉に関わることがあったら、今回の授業で学んだことはとても生かせると思いました。また、もし自分が母親になったら、私も自然が好きなので子どもと自然の中で遊びたいと思いました。昔のことを思い出すと、大人が思っているより幼児はたくさん頭を働かせているんだなと思いました。
- ・ 今まで幼稚園児が考えていることについて興味は無かったが、この授業を聞いて、非認知能力を身につけていることを知り、想像していたよりも遊びが大切なのだと分かった。幼稚園児の時にいかに非認知能力を身に付けられるかが将来に影響してくることに驚いた。
- ・ 子どもがどうして幼稚園、保育園に通うべきなのかが、納得し、関心をもった。私たちの学びと乳幼児の学びを比喩する場面では乳幼児が生活を通して学ぶとの結論がでたとき納得がいった。とても保育職に対して学べる良い機会だった。
- ・ 私自身、将来、教育に関する仕事に就きたいと思っていたので、貴重なお話を聞いて、とても参考になりました。私は、中・高の教員に初め興味がありましたが、今回のお話を聞き、幼児についてのおもしろさや感心がわきました。今日学んだことを将来の自分の選択につなげていきたいと思いました。
- ・ 幼児期の生活は一番重要であると考えました。脳の成長、心の成長体の成長をするためには睡眠をすることだった。日本は世界的に見ても一番子どもも大人も睡眠時間が少ないため、改善すべき点といえる。今回の体験授業を受けてみて、子どもとの接し方やどうやったら子どもがよろこんでくれるのかがわかり、今後子どもと関わる際、生かしていきたいです。

- ・ 小さな子はとても好きなのですが、今まで保育の学びを深める機会があまりありませんでした。今回の体験受業を通して保育は様々なことがらと関連があることを知りました。また睡眠の重要性・食の重要性などを改めて考える良い時間でした。
- ・ 父が福祉関係の仕事をしている事もあり、少し身近な内容でしたが、実例やそれに対する対処法などを実際に聞きさらに理解が深まりました。障害をもつ人だけでなく、周りも変わっていくことが大切なのだと感じました。疑似体験を通して、手伝ってくれたりする人の温かみが身にしみました。
- ・ 保育・幼児についてあまり関心がありませんでしたが、今回の講義で少し興味がわきました。子どもの貧困や格差について日本は世界的に見ても問題があると、初めて知り、この問題にどう向き合うか考えていく必要があるなと思いました。
- ・ 保育士さんのお給料がそこまで低くないこと、女子高校生からの人気も高いことを初めて知りました。今まで間違ったイメージをもっていたので、正しい情報を知ることができて良かったです。また、講演を通して固定概念にとらわれずに様々な視点からみて、調べることで、新しいことが知れると感じました。そして、将来子どもができたときは1人で抱え込まずに保育園や幼稚園などを利用し、「質の高い保育」を受けさせてあげたいと思いました。
- ・ 保育士という職業には公務員の枠もあるということに驚いた。保育士の適性やなりたいたいという心がないのに、実際に先生になってしまう人もいることが少し恐ろしいと思った。沖縄の貧困率があまりにも高くて、日本にも貧困な人が多いという事実を知らなかった自分が少しはずかしくなったので、これを機に日本の保育の現状についてもっと調べたい。
- ・ 手遊びや紙1枚で楽しさの広がりが凄く印象に残りました。現代はインターネット（YouTube等）に頼ることばかりだけれど、人と人との間でしか得ることのできない尊い経験があるのだと改めて痛感しました。“保育”とは何か、保育の現状。様々な事を学ぶことができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 保育について詳しく学ぶことができました。保育は、大変なこともあると思うけれど、子どもの成長にとってとても大切なのだと改めてわかりました。お弁当箱の歌がとても楽しかったです！子どもの食への興味が広がるきっかけになるなと思いました。保育職への興味、関心が深まりました。私も保育職についてもっと知りたいです！
- ・ 赤ちゃんを育てるには、とても大変であると同時に、楽しいこともたくさんあると分かりました。また、保育士は働きっぱなしで忙しいイメージしかなかったけど、赤ちゃんと一緒に遊んだり喜ばせるのはとてもやりがいのある仕事だとイメージと考えが変わりました。
- ・ 私は将来、保育士を目指しています。そのため、こういった実際の保育現場で遊んでいることであったり、内容を知れるとても貴重な機会でした。保育士は子どもの成長を見守る仕事ですが、それ以上に、子ども見て、子どもから得る学びも沢山あると思うので、大学での実習などでは、こういった子ども心を大切にしたいと思います。

- ・ 実際に赤ちゃんとふれあう機会がなかったが、今回の授業を通して赤ちゃんと交流を深める遊びをしたり、だっこの仕方を学んだりしてふれあうことができてよかった。この経験を生かし、将来に役立てていきたいと思う。
- ・ 将来、幼稚園で働きたいと考えていて、今回の授業を通してより保育について関心を持つことができてとてもよい時間になったと思います。幼稚園生の頃、自閉症の子の支援をしていたのである程度障害のある子について知っていると思ったけれど、自分で体験したことによってより理解をできてとてもよかったです。
- ・ 障害を持った子は様々な困難があることを知ってはいたが、ここまで大変だったとは知らなかった。弱視メガネ(?)をつけたら、とても見えづらいし、手袋をすることでつかみにくくなったりしたので、大変だと思った。あまりこういった体験をできる機会がないので、良かった。福祉関係の仕事に就きたいと思っていたので良い学びになりました。

③ まとめ

本調査の結果、高校生を対象に出前授業を行い、幼児教育の重要性や保育職の魅力を伝えたり、進路選択に役立つ情報を提供したりすることで、子どもや子育てに対する興味・関心が深まり、保育職のイメージにも好意的な変化があることが分かった。また、重回帰分析を行った結果、出前授業を通じて保育や幼児教育に関する学びを深め、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まることで、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになる傾向も示唆された。

出前授業の成果は、保育職を希望する生徒で多くみられたが、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、保育職に対する興味・関心が高まったり、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになったりする生徒が一定数いることも分かった。出前授業の主な感想をみると、「子どもがどうして幼稚園、保育園に通うべきなのかが、納得し、関心をもった。私たちの学びと乳幼児の学びを比格する場面では乳幼児が生活を通して学ぶとの結論がでたとき納得がいった。」「赤ちゃんを育てるには、とても大変であると同時に、楽しいこともたくさんあると分かりました。また、保育士は働きっぱなしで忙しいイメージしかなかったけど、赤ちゃんと一緒に遊んだり喜ばせるのはとてもやりがいのある仕事だとイメージと考えが変わりました。」「保育・幼児についてあまり関心がありませんでしたが、今回の講義で少し興味がわきました。子どもの貧困や格差について日本は世界的に見ても問題があると、初めて知り、この問題にどう向き合うか考えていく必要があるなと思いました。」といった感想が多数みられた。

以上のことより、高校生に保育職の魅力を伝え、将来の保育者の芽をはぐくんでいくためには、高大連携の観点から保育・幼児教育に係る体験授業を積極的に取り組んでいくことが大切であると考えます。